

多摩川河口で観察されたニシセグロカモメについて

中 村 一 恵・石 江 馨・石 江 進

On a Lesser Herring Gull Observed in Tama-gawa, Kanagawa Prefecture

Kazue NAKAMURA, Kaoru ISHIE and Susumu ISHIE

1987年11月6日多摩川河口（川崎市川崎区殿町）で観察された大形カモメは、検討の結果ニシセグロカモメ *L. fuscus* L. と判定されるに至ったので報告する。本種の日本における記録は、1986年10~11月氏原巨雄氏によって多摩川河口で観察されたのが最初である（氏原，未発表）。本例は86年に続く2度目の渡来記録となる。

報告をまとめるにあたっては、氏原巨雄、室伏友三両氏のご協力をいただいた。厚くお礼申し上げます。

観察記録

この個体（図1）は河口干潟において、セグロカモメ (*L. argentatus*), オオセグロカモメ (*L. schistisagus*), ウミネコ (*L. crassirostris*) の休息混群中に認められた1羽であった（図1）。観察時の天候は快晴、風も穏やかで、順光の中で至近距離から近縁種の比較観察ができた。本個体の特徴を以下に示す。

嘴は鮮黄色で上下嘴に赤斑があり、とくに下嘴で鮮やかで、斑も大きい。嘴はセグロカモメよりやや短かめ、上嘴先端のふくらみもやや弱い。虹彩は淡黄色で、セグロカモメの色調と比較して鈍い。眼瞼は赤。背はオオセグロカモメほどの濃さではなかったが、淡青灰色のセグロカモメよりは明らかに濃く、石板灰色を帯びる。頭頸部の褐色縦斑はセグロカモメやオオセグロカモメほど密ではなく粗いが、頭部から頸部にかけて全体に及び、とくに襟に集中する（図2参照）。足は明るい黄色。初列風切の白斑は最外側に白斑が1個ある他は微量の白点でしかなく、黒色の風切は石板灰色の背と明瞭なコントラストをなす。体の大きさはセグロカモメよりやや小形であったが、翼が長く、翼をたたんだ時の初列風切は尾羽から後方にセグロカモメより長く突き出していた。

考 察

足がピンクではなく、はっきりと黄色であること、成鳥でありながら最外側を除いて初列風切にほとんど白斑がでないことから、本個体がセグロカモメおよびオオセグロカモメでないことは明らかである。問題は黄色の足をもつキアシセグロカモメとの区別である。

DWIGHT (1925) によると、キアシセグロカモメ (DERILLERS のいうセグロカモメ *cachinnans* 群の大部分がこれに含まれる) はニシセグロカモメとセグロカモメの中間的形質を備えた別種で、足は黄色、冬羽成鳥では頭頸部の褐色縦斑が少ない点はニシセグロカモメ的であるが、一方で、初列風切の白斑の出方はセグロカモメに似る。

キアシセグロカモメ群のうち、モンゴル、シベリアのイルクーツクやバイカルなど中央アジア東部と繁殖する個体群 (*mongolicus*) が日本にも渡来すると考えられている (BRAZIL, 1983)。しかし後述するように、中央アジア東部のキアシセグロカモメの足の色が、BRAZIL (1983) がいうように本当に黄色であるかどうかは、大いに疑問である。多摩川個体の足の色ははっきりと黄色である。初列風切の白斑の出方は前述したようにセグロカモメ型ではない。

亜種について

多摩川個体がニシセグロカモメのどの亜種群に含まれるのかを以下に検討する。

DEVILLERS (1983) によると、ニシセグロカモメは次の5亜種に分類される。

L. f. graellsii: アイスランド, イギリス諸島, アイルランド, フランス, スペイン北西部

L. f. intermedius: オランダ, デンマーク, ノルウェイ南部

L. f. fuscus : ノルウェー北部, スウェーデンからコ
ラ半島西部, 白海西部

L. f. heuglini : コラ半島西部からエニセイ

L. f. taimyrensis : エニセイ, タイミル半島

まず, 基亜種 *fuscus* であるが, この亜種の背の色は
非常な暗色で, 日本のオオセグロカモメに匹敵する背
の濃さをもつオオカモメ (*L. marinus*) と同程度かそれ
よりも暗色で, 背から初列風切にかけて全体に石板黒
色を帯び, コントラストを欠く。多摩川個体は, 図 1
から明らかなように, 背と初列風切のコントラストは
明瞭である。基亜種成鳥冬羽では頭頸部の褐色縦斑は
ほとんど常に頭頂部と後頸のみで, 喉に達しない。多
摩川個体は頭頸部全体に縦斑がある(図 1 参照)。した
がって, これらの特徴から多摩川個体は基亜種ではな
いであろう。背の色と初列風切のコントラストの程
度, 頭頸部の縦斑の出方が *fuscus* に似る *heuglini* と
intermedius も除外されよう。

次に最も地方に分布する *taimyrensis* であるが, こ
の亜種をニシセグロカモメに含めるのは問題がある。
エニセイ地区(北シベリア中央部)では, ニシセグロ
カモメの亜種 *heuglini* とセグロカモメ *L. a. vegae* とが
交雑し, 明確な雑種群を形成している。DEVILLERS に
よれば, これが *taimyrensis* であり, ニシセグロカモ
メに分類したのはあくまでも便宜的な処置である。大
きさもセグロカモメ級である。セグロカモメとの雑種
群であれば, セグロカモメ的な特徴が発現されるはず
だが, 多摩川個体にはそのような兆候は認められな
い。*taimyrensis* も除外され, したがって本個体は
graellsii と考えられる。頭頸部の縦斑の程度, 背の色
と初列風切のコントラストの程度は本亜種の特徴
(DEVILLERS, 1983) に一致するようである。

氏原氏観察のニシセグロカモメ 1986 年個体も *L. f.*
graellsii と考えられる。*graellsii* の日本への渡来は現
段階では迷行と思われるが, しかし近年北米東岸への
ニシセグロカモメの渡来が増加している。この亜種も
graellsii であることから, 日本への渡来の背景には本
亜種の分布拡大が起因している可能性はあるだろう。

まとめ

従来日本に渡来しているセグロカモメ *L. argentatus*
型の大形カモメは, セグロカモメ *L. a. vegae* と日本に
も繁殖するオオセグロカモメの 2 種と考えられてきた
が, 実際には少なくとも次の 4 群から構成されている
可能性が大きい。

第 1 群 : 成鳥冬羽頭頸部の縦斑は密で顕著, 足の色
ピンク

1-1. セグロカモメ *L. argentatus vegae*

1-2. オオセグロカモメ *L. schistisagus*

第 2 群 : 成鳥冬羽頭頸部の縦斑はほとんどないか,
あっても粗, 足の色黄色

2-1. ニシセグロカモメ *L. fuscus graellsii*

2-2. キアシセグロカモメ *L. argentatus mon-*
golicus

ただし, 渡来していると考えられているキアシセグ
ロカモメの足の色については問題が残されている。筆
者らによって 1987 年 4 月 12 日, 鶴見川(横浜市港北区
小机町)で観察撮影された成鳥夏羽のセグロカモメ型
大形カモメは鮮黄色の足をもつ個体であった。足の色
だけを重視するならば, BRAZIL (1983) が報告したよ
うにキアシセグロカモメと同定されるのであろうが,
しかし MADGE (1985) によると, シベリアイルクーツ
ク産キアシセグロカモメ (*mongolicus*) 成鳥夏羽の足
色のは, 大多数のものがピンクであるらしい。また
GRANT (1986) によると, モンゴル産成鳥夏羽でも足
の色がピンクである。キアシセグロカモメ *L. cachin-*
nans のうち, 西寄りの個体群 (*atlantis, michahellis,*
cachinnans) の足ははっきりと黄色である (GRANT,
1986) が, 東方の個体群 (*mongolicus*) の足はそうで
はないのかもしれない。したがって, 単に足の色が黄
色である特徴をもってキアシセグロカモメ (*L. c.*
mongolicus) と同定してよのかどうか, 問題がある。
しかしセグロカモメ (*L. a. vegae*) の足の色は年令に
関わりなく常にピンクであるから, 日本に渡来してい
る黄色の足をもつ“セグロカモメ”が別系統のもので
あることは間違いないだろう。

はっきりと黄色の足をもつ個体の他に, 足の色がは
っきりした黄色ではなく, ピンクとの中間的な色調を
もつ個体(中村, 1986)や, セグロカモメ型であるが
初列風切にほとんど白斑を欠く個体もいる。また, 冬
羽であっても頭頸部の縦斑が不明瞭の個体もいる。こ
うした不安定な形質をもつ個体群こそが *taimyrensis*
であるかもしれないが, 現段階では明らかではなく,
自信をもって述べることのできる材料は持ちあわせて
いない。

文 献

BRAZIL, M., 1983. A sight record of Yellow-legged
Herring Gull from Kyushu, Japan, *Tori*,

32 : 112-113.

CRAMP, S and K. E. L. SIMMONS (eds.), 1983. The birds of the western Palearctic, vol. 3. Oxford (とくに Devillersによる系統分類の頂).

DWIGHT, J., 1925. The gull(Laridae)of the world; their plumages, moults, variations, relationship and distribution. *Bull. Amer. Mus. nat. Hist.*, 52 : 63-401.

GRNT, P. T., 1986. Gulls, a guide to identification second edition. T & AD Poyser, England.

MADGE, S. C., 1985. Iris colour of Mongolian Yellow-legged Gull. *Dutch Birding*, 7 (4) : 145.

中村一恵, 1986. 黄脚のセグロカモメについてのコメント. 神奈川自然誌資料, (8) : 82-83.

(中村一恵 : 神奈川県立博物館, 石江馨・石江進 : 日本野鳥の会神奈川支部)

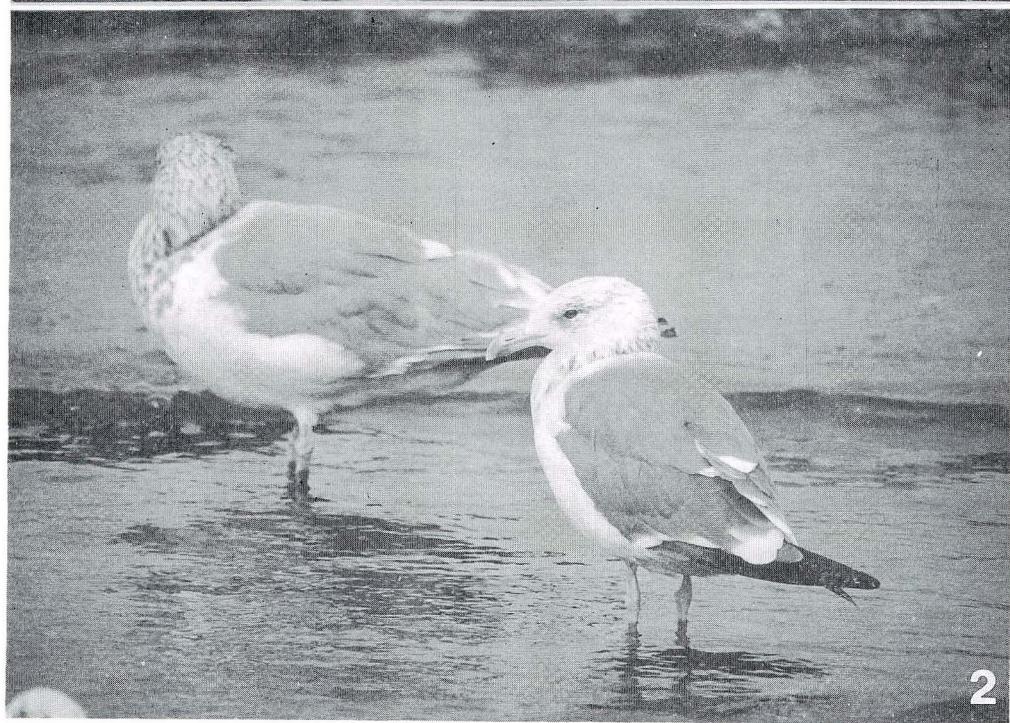


図1 多摩川河口で観察されたニシセグロカモメ

図2 セグロカモメ（後方）との比較

撮影：石江 馨